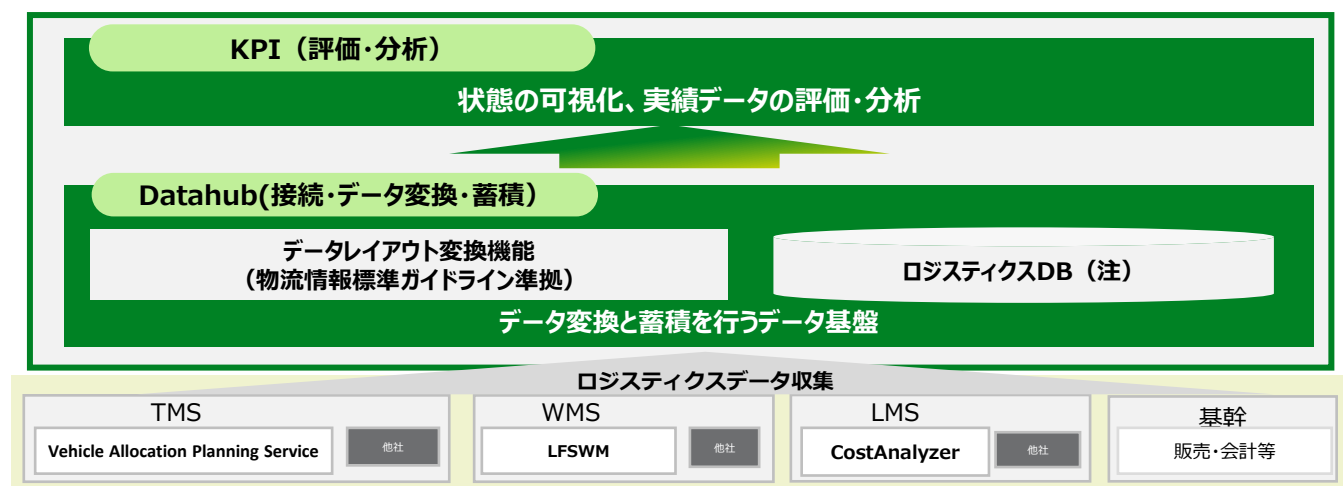


物流情報標準ガイドラインに対応したデータ 変換・可視化を実現

物流関連システムから収集したデータを変換・蓄積するDatahub機能と、可視化・分析を行うKPI機能で、ロジスティクスデータ標準化による様々な利活用をご支援するクラウドサービスです。

「2024年問題」により2030年には34%の輸送力不足が懸念され、企業の事業継続性に大きな課題となっている。解決のためにはドライバーや車両など、リソースの社会共有と利活用が必要と考えます。そのためにはロジスティクス業務のデジタル化やデータ標準化が必須だが、各企業の自社システム変更は多大なコストや時間を要します。そこでロジスティクスデータの標準化を推進し、サプライチェーンの効率化に寄与するクラウド型サービス「Logistics Global Link」を提供します。

Logistics Global Link全体概要



(注) 物流情報標準ガイドラインで標準化されたDBデータ項目を活用

Global Link

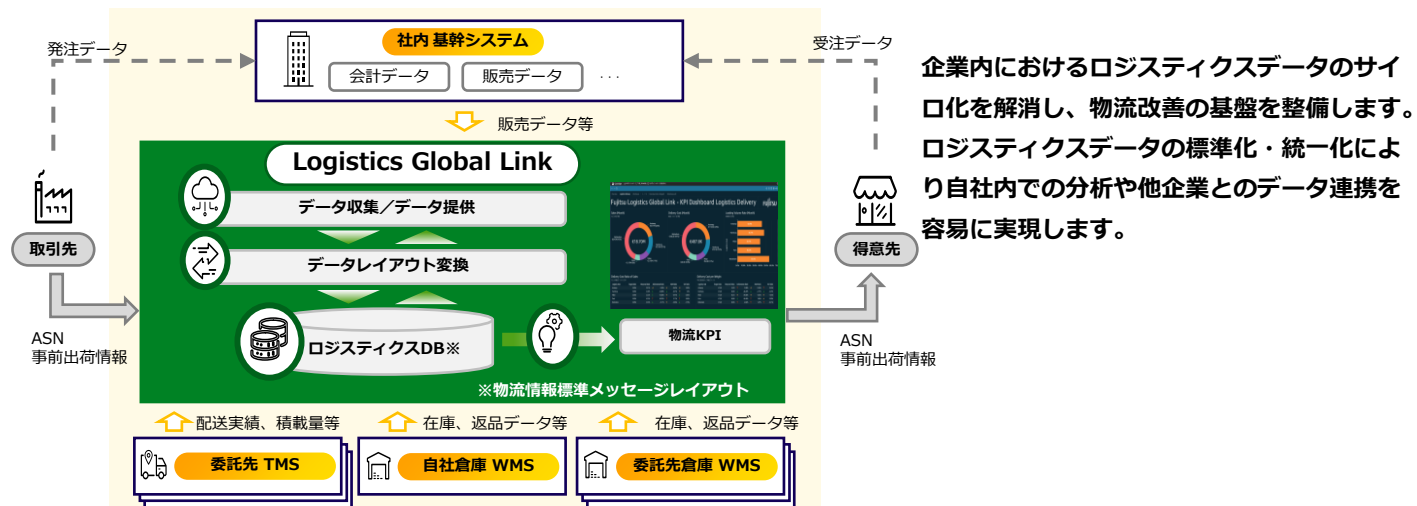
オフアリングの概要

- データ標準化による企業間のシェアリングを支援し、輸送力の向上を実現
- 標準化したデータの企業間連携により、検品作業や伝票入力などの業務効率化を実現
- 可視化・分析機能による物流の業務改善や全体最適化を促進

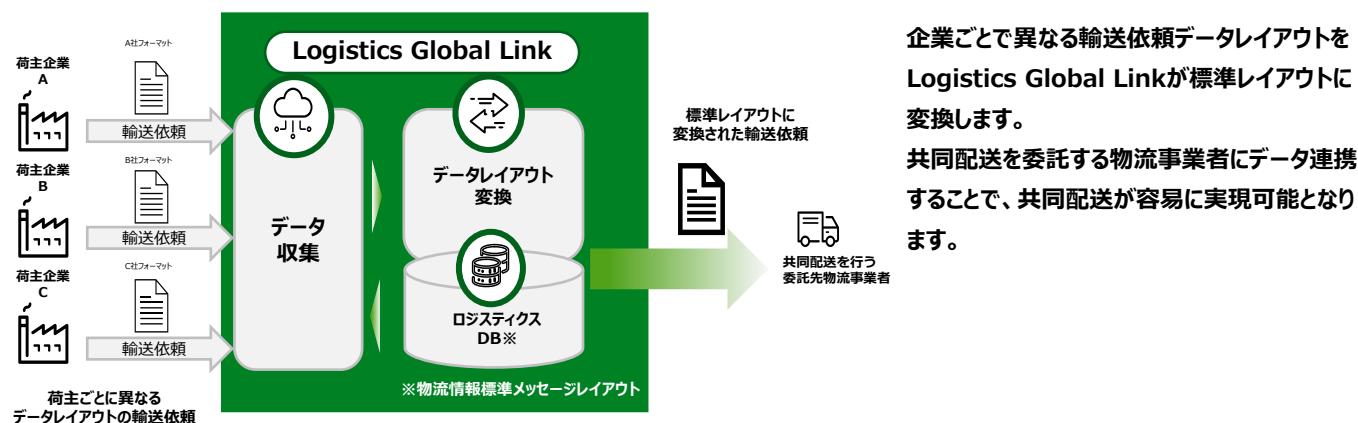
オフアリングの特長

- 物流情報標準ガイドラインに準拠したデータレイアウトに自動変換
- 関連システムから収集したデータを変換・蓄積するDatahub機能を搭載
- 可視化・分析を行うKPI機能を搭載

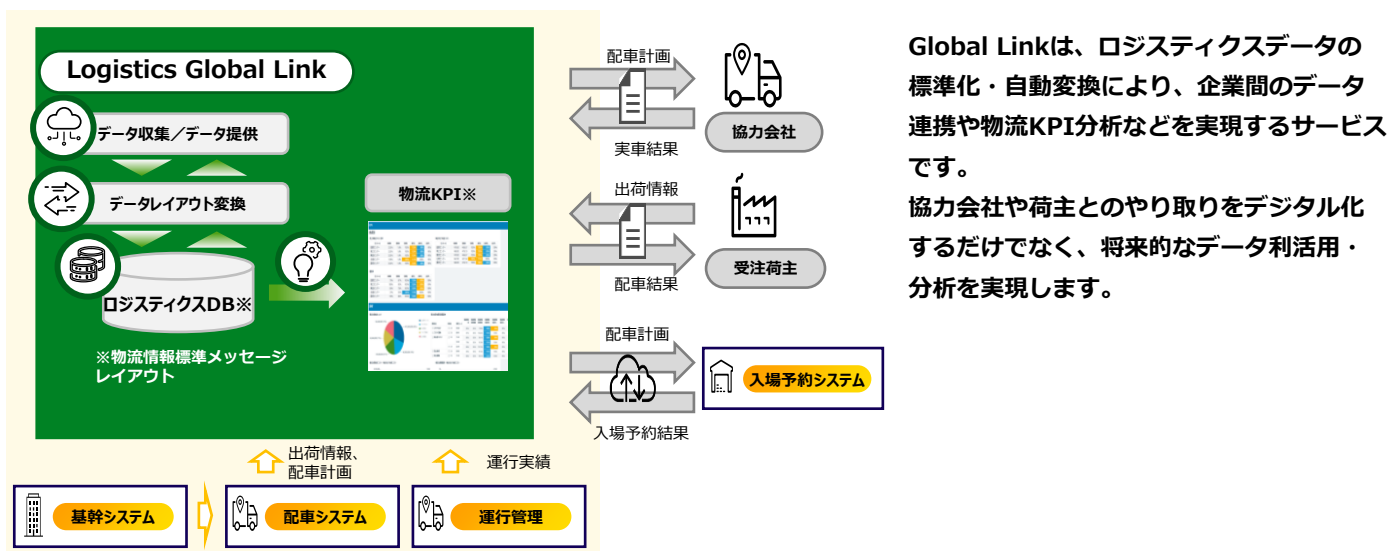
ユースケース①企業内及び物流委託先のデータ収集・分析/企業間データ連携



ユースケース②複数の荷主企業による容易な共同配送の実現



ユースケース③協力会社等の外部企業とのデータ連携



お問い合わせ先
富士通株式会社

クロスインダストリーソリューション事業本部 DynamicSC事業部

[お問い合わせフォーム](#)

Unified Logisticページは[こちら](#)

